

1.これまでに、若年性認知症の方の支援を行ったことはありますか？

ある	ない
13名	18名

2.あると答えた方はどんな支援をされましたか？

- ・オレンジとの連携
- ・医療機関でのサポート
- ・情報共有、連携
- ・鑑別診断および入院調整、B型利用の調整など
- ・入退院支援
- ・認知症カフェにつなげる、介護者同士をつなげる支援
- ・あんしん登録者で入所施設が担当地域
- ・生活を整える・受診・内服管理・障害や介護サービス利用・家族・借金問題・後見制
- ・就労支援（2件）

3.現在、若年性認知症の方を支援していますか？

支援している	支援していない	無記名
6名	24名	1名

4.現在、若年性認知症の方を支援している方で、コーディネーターの支援が必要な方は居ますか？

いる	いない	無記入
6名	15名	10名

5.若年性認知症支援コーディネーターの役割について理解できましたか？

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった
21名	10名	0名

6.若年性認知症の方の支援について理解できましたか？

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった
17名	14名	0名

7.若年性認知症の方の支援の中での課題について理解できましたか？

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった
13名	18名	0名

8.業務の中で、若年性認知症の方の支援の際に他職種連携について課題に感じる事がありますか？

ある	ない	無記入
18名	12名	1名

9.他職種連携について課題に感じている方に質問です。それはどんなことですか？

- ・ 包括支援センターは65歳以上の方を見ていくのに手いっぱいな状況。65歳未満の方は障害福祉班が担当しているが、連携がうまくできない。早期から一緒に介入を行いたいが、なかなか手が回らない。
- ・ 障害支援側との連携の困難さあり。講義でもあった包括の「65歳以下の支援は対象外。」の考えはなくしていかないといけないと思いました。
- ・ 具体的な支援体制づくり
- ・ 関係性
- ・ 連携先との信頼関係構築に努めたい
- ・ 情報がきちんと伝わっておらず、申請が遅くなった
- ・ 計画相談員やB型事業所からの報告の少なさ。
- ・ 研修中もお話があったように、市町村や担当者で対応が異なるので、大変だなと感じました。
- ・ 顔の見える関係作り
- ・ 地域の就労継続支援事業所に若年性認知症の方の受け入れ実績がなく、介護保険のデイサービスでもほとんど実績がないため、ご本人の居場所づくりのための連携が難しい。支援実績を重ねていき、事例を通して理解を深めるとともに、このような支援者研修会に、ケアマネジャーや相談支援専門員、事業所関係者が参加できると理解が進み連携がしやすくなると思います。
- ・ 10人十色なので、その人なりの支援が必要だと考えるから。
- ・ 担当CMが付き後方支援をするが 担当者会議に呼ばれず 情報共有が出来ない
困った時に相談がありアセスメントの不十分さを感じ 職種で思いや目標が違う
担当CMの認知症を含め疾患の理解が不十分であることが大きい。チームで支援する中に新オレンジ室や包括が入っていない。一人のCMだけではないため 包括4職種でその都度CMへは個別に声かけをしているがまだまだです。
- ・ 若年性認知症の方の相談窓口が少ない。支援不慣れのためたらい回しにされる事がある。

10.今回の研修についての満足度を教えてください。

とても良かった	まあ良かった	良くなかった
22名	9名	0名

11.今後の研修会の開催についてどちらが良いとおもわれますか？

オンライン開催	会場開催	重複記入
26名	8名	3名

12.上の質問について、選択した理由は何ですか？（例：会場→オンラインだとネット環境が不備等）

- ・会場だと、移動時間を考慮する必要がある。
- ・移動時間に時間を要するため
- ・移動時間の短縮
- ・ハイブリッドが良いと思う。本人発信の際はリアルが良いと思います。
- ・オンラインの方が参加がしやすい
- ・まだまだ COVID-19 が感染拡大中のため、オンラインがいい。また、会場までの往復が時間の無駄。
- ・オンラインは時間調整がしやすい
- ・移動時間、感染
- ・時間短縮可能なので
- ・参加が容易
- ・移動時間を気にせず、業務の合間で参加ができるのはいいが、ネット環境の影響で時々固まってしまうのは難点。移動時間の短縮。移動時間がないため、業務中でも参加しやすい。
- ・顔の見える関係性を構築したいため
- ・会場が遠ければ参加出来ないこともあるため。遠方の方も参加しやすい。
- ・業務時間内に参加しやすい。業務時間の合間に受講できるため。
- ・業務に大きく差し支えなく参加しやすい。ぎりぎりまで業務ができる。
- ・ハイブリッドで選択できる形の開催ならなお良いと思う
- ・運営が難しいとは思いますが、ハイブリッド開催を希望します。オンラインだと県内全域で視聴できるため。ただ、コーディネーター同士が顔と顔を合わせられる方が、制度の壁や困りごとを共通で認識しやすく、理解しあいやすいかなと思ったので会場開催にしました。
- ・オンラインだと移動しなくて良いので参加しやすい。
- ・感染対策が容易
- ・離島なので、集合研修参加が難しくオンラインであれば参加しやすいため。
- ・どちらでもよい
- ・開いた時間に参加しやすいから。
- ・オンラインは、業務多忙でもどうにか参加できるという点で良いのですが 日頃の疑問や思いを話をする場として会場で集う 他地域で支援している支援者と繋がる場となる。困っている悩んでいる支援者がまた頑張ろうと思える
- ・まだコロナ感染者状況が落ち着かないのでオンライン開催を希望しました。
- ・個人的には、オンラインよりも会場の方が情報共有がしやすく感じる。
- ・顔を合わせて直接いろいろと相談出来たり、名刺を渡したり出来れば今後も繋がりやすくなるのではないかな。

13. 今後の研修について要望や感想等あれば記載ください。

- ・とても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・本人様の声、意思決定支援がもう少し聞きたかったです。
- ・事例が興味深かった
- ・ダウンロードした資料には入っていないスライドの報告があったため、追加があるなら資料提供してもらいたい。
- ・安次富さん、たくさんの資料作成お疲れさまでした。今回多職種連携を対象に包括支援センターや認知症地域支援推進員が気をつける事をまとめて頂いたのが大変参考になりました。今後圏域内に支援対象の方がいたり、新オレンジサポート室からお声がかかれば円滑に連携できるように資料を読み返しておきたいと思います。
- ・一部があまりに盛りだくさんで要点を掴むのが大変で質問するにも難しく感じた。確かに全て大切な内容であり必要な知識だとは思いますが可能であれば開催ごとにポイントをおいた内容を伝えていただくとありがたい。
- ・いつも丁寧な個別支援のなか、貴重な研修会の開催をありがとうございます。今後、産業側/雇用側や学校や子ども側（難しいとは重々承知しています。すみません）の好事例や受入れのプロセスなどを、具体的に教えてもらえたら助かります。認知症になってもソフトランディングできるような体制について、自分ごととしても参加者としても共通理解しやすいのかなと思いました。
- ・研修ありがとうございます。貴重な事例紹介、ありがとうございます。
事例を通して、それぞれの役割分担が明確でわかりやすかったです。次回は就労およびお子さんがいるケースの支援があれば、支援の経過をご教授いただきたいです。
- ・今回の研修は、多職種多機関の連携の流れを時系列でそれぞれの関係者がリレー形式で説明するという方法でしたが、「連携」が非常にわかりやすくてよかったです。今後も、連携の事例を取り上げてくださるとありがたいです。
いつも新しい発見がある研修です。たくさん準備していただき本当にありがとうございます。
- ・若年性認知症の事例を可能な限り、お伝え頂ける研修会を希望いたします。
- ・わかりやすい研修でした。資料もたくさん準備され大変だったかと思います。ありがとうございます。講義内で少しネガティブ表現があり少し複雑な気持ちになる場面もありました。
- ・事例を通しての支援がわかりやすかったので、備えのためにも又事例も入れてほしい。
- ・事例が聞けてよかった
- ・事例報告がわかりやすかったと思います。若年性認知症支援に関わる多職種で事例検討会グループワークが出来ると気付きやどうしたらいいのか戸気軽に聞けないか？CM や訪問看護 訪問介護・デイなどで架空の方の支援を検討するのはどうでしょう
- ・当事者の方のお話も聞きたいです。また、どのように支援されているか等も伺いたいです。

以上